

## 2 かがやかしい先人たち

### (1) 世界的な医学者 野口英世 のぐちひでよ

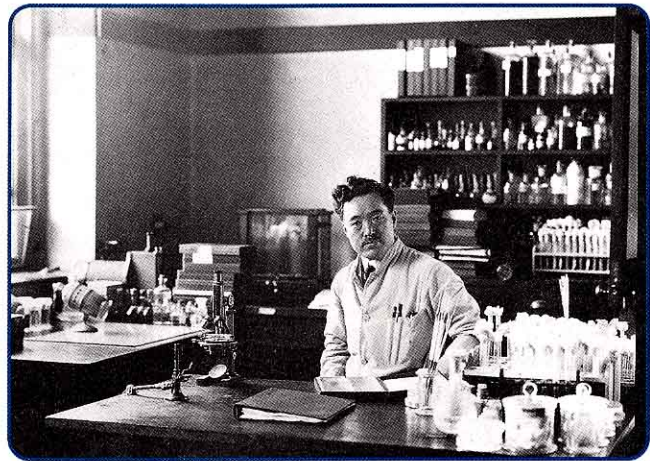
英世は、1876年（明治9年）翁島おきなじまの三城瀨さんじょうがたに生まれました。

1才半のとき、いろりに落ちて大やけどをし、左手は、ちょうど松の木ののこぶのようになりました。

英世は、不自由ふじゆうな手のためになやみ苦しみました。16才のとき、若松の医師である渡辺鼎わたなべかなえの手術しゆじゆつを受けてなお、医術いじゆつの尊とうとさを感じ、それから医学の研究をこころぎすようになりました。

自分で一生懸命いっしやうけんめい勉強し、1897年（明治30年）医師開業試験いしがいぎやうしけんに合格ごうかくし高山齒科学院たかやましかがくいんの講師こうしになりました。

1900年（明治33年）アメリカにわたり、フレキスナー教授きやうじゆに毒へびどくの研究をたのまれ、そのすばらしい研究の成果が学界のひょうばんになりました。



その後、デンマークに留学りやうがくしたり、ロックフェラーろくふえ  ロックフェラー医学研究所での英世

ラー医学研究所に入ったりして、スピロヘータ・レプトスピラ・オロヤ熱病原びやうげんたい体・トラホームの病原体などの研究をし、人類に幸福をもたらす数多くの成果をのこしました。

英世は、進んでアフリカにわたり、黄熱病おうねつびやうの研究をしましたが、不幸にも同じ黄熱病のため今のガーナでなくなりました。51才でした。

理学博士・医学博士・マスターオブサイエンス・パリ大学のドクトルをはじめ、各国からくん章や名よ賞、各大学や各学界からも名よ賞